

巻頭言 未来から逆算して考えよう

国際 P2M 学会名誉会長 吉田 邦夫

先頃、マイナンバーカードを取得した。手続きに必要な書類の発送が全国的に送れていることが報ぜられていて、事実、筆者の自宅にも書類が送られてくるのに申請してから5ヶ月も要した。これ程まで遅れているものは暫く放置しようとも考えたが、銀行や保険会社からの書類に、番号記入を求められることが続いたので、ついに区役所出張所まで出かけることを決心した。

取得にあたって驚いたことが2つある。まず、このカードに10年という有効期限が付いていたことである。もう一つが、4つものパスワードを求められたことである。多数の隠れ口座を有し、税金を逃れようとする怪しからん連中を取り締まることや、年金の交付を確実にしようというマイナンバー設定の趣旨は正しいと思う。しかし、考えて見て欲しい。今でも国民の4分の1が65歳を超え、10年後には、その数が3分の1にもなろうという超高齢化社会を迎えようという日本である。今年、申請して、10年後には80歳に達する人数が多数となることが確実な日本で、期限を付けることの意味は何なのであろうか。しかも、この高齢の人々が4つのパスワードを覚えていると考える根拠は何処にあるのであろうか。さらに、付け加えれば、この4つのパスワードの一つは5年後に変更することが求められている。何故？ まさに疑問だらけの制度であると言わざるを得ない。諸々の説明を聞きながらパスワードをパネルに入力していく作業は少なくと

も30分を要する。来年3月までに、もし、全国民が手続きをすると考えるならば、窓口が対応できるとは到底考え難い。政府は、この制度の全体設計をどのように考えているのであろうか。

制度を設計するにあたって必要なことは、10年後、20年後の将来を見通して長期間に亘る使い勝手の良さを考えることであろう。2020年に開催される東京オリンピックでも同じ事が言えるのではないか。繰り返しになるが、4年後に日本は今より高齢化社会となっていて、オリンピック終了後には、それが一段と加速されていく。若年人口が激減していく東京に豪華極まる国立競技場を作って、その後、どのように使用して行こうというのであろうか。何故、既存の競技場の補修で済まそうという考えが出来なかったのかと残念でならない。いつまでも、公共投資でハコ物を作ることによるのみしか、経済再生策を考えられない無策な政府には失望せざるを得ない。

10年後、20年後のあるべき姿を見据えて、そこから逆算して、今、必要な手立てが何かを考える。これこそ、プログラムマネジメントの根幹をなす考え方である。当学会が、絶えず、この理念の重要性を発信し続ける様であって欲しい。